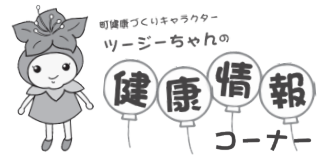


インフルエンザ予防接種

費用の一部を助成します。

新型コロナウイルス感染症予防のためにも、インフルエンザの流行期も引き続き感染予防を心がけましょう。



接種期間：**10月19日（月）～令和3年1月31日（日）**

【65歳以上】

個人あてにインフルエンザ「受診券」を送付します。医療機関に「受診券」と「予診票」を持参し、接種してください。医療機関によっては予約が必要です。かかりつけの病院・医院へご確認ください。

▼自己負担額

年齢 ※令和2年12月31日時点の年齢	負担額
65歳以上	1,000円

【1歳以上65歳未満】

世帯ごとに「助成券」を送付します。※予診票は病院にあります。

▼助成券が使用できる医療機関

医療機関名	電話番号
日野病院・黒坂診療所・二部診療所	0859-72-0351
江尾診療所	0859-75-2055
日南病院	0859-82-1235



上記以外の医療機関で接種する場合は、接種後、役場（または役場黒坂支所）へ申請すれば、自己負担額をのぞいた接種費用を助成します。

▼申請に必要なもの

- ①領収書
- ②接種済み証または診療明細書など（予防接種をしたことがわかるもの）
- ③母子健康手帳（子どもの場合） ④印鑑 ⑤口座番号が分かるもの

▼申請場所 役場健康福祉課または役場黒坂支所

▼申請期間 **10月19日（月）～令和3年2月12日（金）まで**

※ただし、令和3年1月31日までの接種に限る。

▼自己負担額 次のとおり ※詳しくは、助成券とともに配布する案内をご覧ください。

年齢 ※令和2年12月31日時点の年齢	1回目	2回目
1歳以上13歳未満	500円	500円
13歳以上19歳未満	500円	
19歳以上65歳未満	1,000円	

【問合せ先】 町健康福祉センター
（電話 72-1852）

ハイリスク者は、より積極的に接種を

ハイリスク者は、インフルエンザにかかると重症化したり、肺炎を合併したりする危険性が高くなります。医師と相談の上、積極的にワクチンを接種しましょう。

！ 主なハイリスク者

- 高齢者
- 心臓病、高血圧、糖尿病、腎臓病、COPDなど持病がある人
- 肥満 ○妊婦 ○乳幼児 など



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

多彩なしびれの症状と原因 適切な診断が重要

ビリビリする、キリキリする、ジンジンする、触っても分らない、痛みを感じにくい、熱さを感じないなど、しびれの訴えは人によってさまざまです。前半の3つは異常感覚を意味しています。後半の3つは感覚鈍麻の症状です。

さらに患者さんによっては、力が入らない、動きが悪いなどの運動麻痺・脱力なしびれと表現することもあります。このようにしびれの実際の症状は多彩で、それによって原因も異なりますので、適切な診断が重

要です。皆さんもこのようなしびれを経験したことがあると思います。

今回はその中でも「危険なしびれ」についてお話します。

あなたのしびれは大丈夫？ 3つのポイント

しびれを自覚したら、次のことをチェックして下さい。

①どのような起こり方か？

突然（数分から数時間）、急性（一日から数日）に起こってきたか。頭や首をけがした後か。

②どこがしびれているか？

顔を含むか。いくつも異なった部位に起こっているか。しびれの範囲がだんだん広がってくるか。

③しびれ以外の症状を伴っているか？

意識障害、ものが二重に見える、しゃべれない、筋力低下、呼吸困難、排尿・排便障害、発熱

しびれの症状を把握して 早めの病院受診を

以上の3つの項目にあてはまっていれば、早急に病

院に受診してください。

突然、あるいは急性に起こるしびれの原因には、脳出血や脳梗塞などの血管障害や、ギラン・バレー症候群など自己免疫疾患があります。頭や首のけがをした後に起こった場合は、脳損傷や脊髄損傷が疑われます。いずれも急速に悪化する可能性があります。早期に治療が必要です。

しびれの部位については、顔を含むときは脳の疾患が考えられます。手、足、体などあちらこちらがしびれるときは、血管炎が原因であることが少なくありません。しびれの範囲がだんだん広がるのは、病変が進行している可能性が高いので注意が必要です。反対に、しびれの強さが強くなったり弱くなったりしても、範囲が変わらなければ病状が悪化していることは少ないのです。

最後に、しびれ以外の症状の合併も原因を特定する重要な所見です。意識障害、ものが二重に見える、しゃべれない、筋力低下は、脳

や脊髄の疾患を疑います。呼吸困難は呼吸筋麻痺の可能性があり、速やかに呼吸管理が必要になります。排尿排便障害は、脊髄の障害でみられます。発熱は感染症や自己免疫性疾患、血管炎を原因として考える必要があります。

多くのしびれは慢性で生命の危険にはあまり関与しませんが、中にはこのような「危険なしびれ」もあります。油断しないようにしましょう。

